

株主の皆様へ

第77期 事業報告書

2015年12月1日▶2016年11月30日

Contents

株主の皆様へ …P 1

トップインタビュー / 代表取締役社長 岩城 慶太郎 …P2

セグメント別の概況 …P5

連結決算ハイライト…P7

小さな社会貢献活動への取り組み…P8

イワキグループネットワーク…P9

会社概要 / 株主メモ / 株主様アンケート…P10

株式情報 …裏表紙



イワキ 株式会社

証券コード：8095

株主の皆様へ



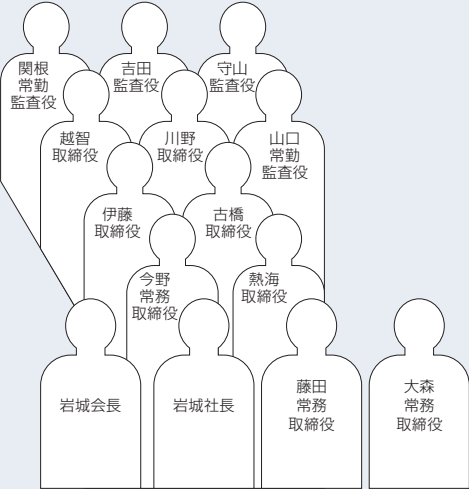
当社グループは、2016年1月に中長期ビジョン「Vision “i-111”」を発表し、創業111周年を迎える2025年までに実現する定量・定性的目標を定めました。本計画では、当社グループの社是である「誠実」「貢献」「信用」を倍加させるため、お客様・お取引先様の課題を総力で解決する『策揃え』企業になることを、次なる成長戦略としています。

『策揃え』とは、言わば「なんでもやる」ということ。これまで100年に亘って培われたネットワークとノウハウを原資として、より「誠実」に、より大きな「貢献」を提供し、そして強い「信用」を勝ち得る企業グループになるべく、邁進してまいります。

引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2017年2月24日
代表取締役社長 岩城 慶太郎

役員紹介



トップインタビュー

Q 1 2016年11月期の営業状況について
総括願います。

A 1 医薬・FC事業が業績を牽引。営業利益・経常利益は期初予想を大きく上回る改善を果たしました。

当期の事業環境を振り返りますと、医薬品および医薬品原料市場は、ジェネリック医薬品が引き続き拡大基調を示すなど好調に推移し、機能性食品原料・化粧品原料市場も、機能性表示制度への対応や化粧品のインバウンド消費などを背景に堅調を維持しました。一方、表面処理薬品市場は、スマートフォンの成長鈍化などによる影響を受け、食品原料市場においても、人手不足が労働コストを押し上げるなど厳しい環境が続きました。

そうした中で当社グループは、10年後を見据えた中長期ビジョンの策定とともに、そのファーストステップとなる3ヵ年中期経営計画を始動し、さらなる成長と企業価値の拡大に向けた取り組みを進めてきました。

結果として当期の連結業績は、医薬・FC事業の好調が牽引し、売上高は551億2千1百万円(前期比0.5%減)と若干の減収ながら、営業利益は9億7千7百万円(同74.6%増)、経常利益は10億7千1百万円(同54.3%増)と、それぞれ期初の計画を1億円以上超過する改善を果たしました。しかし、親会社株主に帰属する当期純利益につい

ては、連結子会社メルテックス株式会社が保有する固定資産について減損損失を計上したことにより、5億9千3百万円の純損失(前期は1億4千3百万円の純損失)となりました。

営業状況をセグメント別に概括しますと、医薬・FC事業は、医薬品原料分野においてジェネリック医薬品原料の拡販を積極的に推進し、医薬品分野においてもジェネリック医薬品への対応強化に努めた結果、売上が大きく伸長しました。利益面は、製造原価の低減や物流費・広告宣伝費の削減も寄与し、大幅な増益を確保しました。

HBC事業は、機能性食品原料および化粧品原料分野において、新規自社原料の提案や海外顧客への営業活動による成果が見込みを下回り、一般用医薬品を主体とした卸売分野も既存PB商品が不調だったことから、売上高は若干の減収となりました。利益面は、通販化粧品分野における広告宣伝費の増加などにより、減益となりました。

化学品事業は、表面処理薬品分野が海外を中心に非常に厳しい状況で推移し、表面処理設備分野も国内企業の設備投資低迷による影響を受けたことから、売上高が減少し、営業損失を計上しました。

食品事業は、天然調味料などの販売が堅調に推移したものの、受託加工の低調により売上高が前期を下回り、黒字化に至りませんでした。

Q2 3ヵ年中期経営計画の初年度進捗をご説明願います。

A2 営業利益は10億円に迫り、順調に進捗。4つの基本戦略にもとづく取り組みを加速していきます。

当社グループは、創業111周年を迎える2025年11月期へ向けて、グループ中長期ビジョン「Vision “i-111”（アイ-トリプルワン）」を掲げました。「Vision “i-111”」は、2025年11月期の連結業績における「売上高1,000億円」「ROIC（投下資本利益率）10.0%以上」の達成を目指し、①「策揃え」企業になる（Intelligent）、②「ナンバーワン」製品・事業に注力する（Innovative）、③海外市場への事業展開を図る（International）、④資本効率を意識した事業運営を行う（Investment）の4つの基本戦略を遂行していきます。

そして、同時に策定した3ヵ年中期経営計画は「Vision “i-111”」の第1段階として位置付けられ、2018年11月期の連結業績における「売上高600億円」「営業利益10億円」「ROIC4.0%以上」の達成を目指すものです。

計画初年度は、お客様の課題を解決する「策揃え」に対応した新組織体制への移行を果たし、グループ機能を活かした着実な成長と利益の確保に努めました。その成果として、

当期の営業利益はすでに最終年度目標の10億円に迫り、順調な進捗を示しています。

今後の2年間においては、4つの基本戦略にもとづく取り組みを加速し、売上高および利益のさらなる拡大と資本効率の向上を図ってまいります。

Q3 2017年11月期の見通しと取り組みについてお聞かせください。

A3 医薬・FC事業の好調を維持しつつ、他事業の業績改善に努めることで、増収・増益を目指します。

中期経営計画の2年目となる2017年11月期の事業環境は、国内景気の緩やかな回復基調が予想されるものの、アジア諸国の低調による影響や、為替変動を受けた輸入原材料価格の上昇などが懸念されています。

当社グループ事業の見通しおよび取り組みについて述べますと、医薬・FC事業においては、引き続きジェネリック医薬品市場の拡大に伴う医薬品・原料の需要増加が期待できる状況です。医薬品原料分野では、新規顧客の開拓とともに、潜在する顧客ニーズの情報収集を行い、医薬品分野では、安定供給体制を整備しつつ、医療機関・調剤薬局への情報提供に注力していくことで、一層の売上拡大を図ります。

HBC事業においては、機能性表示食品の届け出商品数の増加が見込まれ、またインバウンド消費による化粧品の高価格帯商品の伸長や新製品投入により、市場は堅調に推移するものと予想しています。その中で、機能性食品および化粧品原料分野では、既存顧客との取引を強化し、自社企画商品・新規自社原料の開発および提案、海外売上高比率の拡大に注力します。一般用医薬品を主体とした卸売分野では、顧客開拓と取引拡大に向けた施策と並行して、コスト低減活動を推進していきます。

化学品事業においては、スマートフォン市場の鈍化が続き、関連する電子部品およびプリント配線板市場も低調に推移することが予想されますが、自動車産業はグローバルで堅調に推移していく見通しです。そうした状況のもと、表面処理薬品分野では、プリント配線板向けや電子部品向け新製品の販売に注力し、車載部品向けでの実績を築くとともに、既存海外拠点の体制を拡充し、戦略的な拡販活動を推進していきます。

食品事業においては、少子高齢化や共働き世帯の増加などの社会変化を背景に、健康志向品、調理簡便化などニーズの多様化がさらに進むものと予想されます。その中で当社グループは、顧客の課題解決に主眼をおいた新規原料の提案、既存原料の拡販を推進し、同時に品質管理体制の強

化に努めてまいります。
2017年11月期の連結業績は、売上高580億円(当期比5.2%増)、営業利益13億6千万円(同39.2%増)、経常利益14億円(同30.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益8億4千万円を予想しています。

Q4 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A4 中長期ビジョンおよび中期経営計画を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を実現します。

このたびの期末配当は、予定通り1株当たり3円とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、同3円の間配当と合わせて同6円(前期同額)となりました。今後一層の業績向上を目指し、利益還元の水準を高めるべく努力いたします。

当社グループは、売上高1,000億円の実現に向けた中長期ビジョンと、その基礎を確立する中期経営計画を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも長きにわたりご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 岩城 慶太郎

セグメント別の概況

お取引様の課題解決に向けた様々なニーズに当社グループのあらゆる機能で応える「策揃え」を実現し、変革スピードを向上させるため、プロダクト毎のバリューチェーンに従って医薬・FC(Fine Chemical)事業、HBC(Health & Beauty Care)事業、化学品事業、食品事業の4事業にセグメントを再構築いたしました。

売上高構成比 (2016年11月期)



医薬・FC事業

※FC=Fine Chemical



イワキ株式会社



岩城製薬株式会社

◆ 事業内容 ◆

医薬品原料・医薬品の開発・製造から販売、また臨床検査薬などの販売も行っていきます。

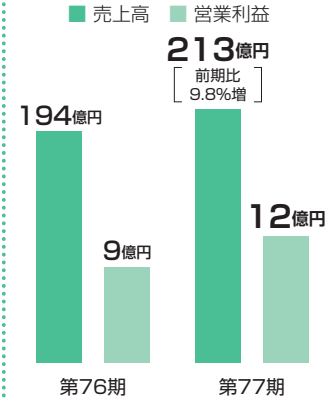


◆ 当期のポイント ◆

医薬品原料分野において、ジェネリック医薬品原料の販売が大幅に伸長。

医薬品分野において、ジェネリック医薬品の抗真菌剤、アトピー性皮膚炎治療剤をはじめとする主力外皮用剤の売上が大幅に伸長。

◆ 業績推移 ◆



HBC事業

※HBC=Health & Beauty Care



イワキ株式会社



Apros

◆ 事業内容 ◆

一般医薬品、化粧品原料・機能性食品原料の販売、化粧品の通信販売およびOEMなどを行っています。



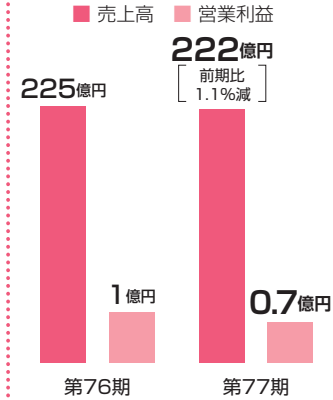
◆ 当期のポイント ◆

機能性食品原料および化粧品原料分野は、全体として低調に推移。

一般用医薬品を主体とした卸売分野は、前年並みで推移。

通販化粧品分野は、新製品の発売や主力製品の販売が伸長し、好調に推移。

◆ 業績推移 ◆



化学品事業



◆ 事業内容 ◆

表面処理薬品の製造・販売、化学品原料などの販売を行っています。

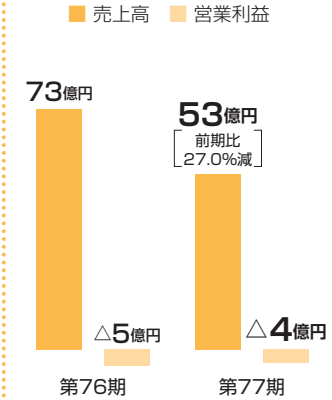


◆ 当期のポイント ◆

表面処理薬品分野では、新製品の拡販で一定の成果が得られるも、海外を中心に非常に厳しい状況で推移。

表面処理設備分野では、各社の設備投資低迷の影響があり全体として低調に推移。

◆ 業績推移 ◆



食品事業



イワキ株式会社



ポーエン化成株式会社

◆ 事業内容 ◆

食品原料などの製造・販売を行っています。

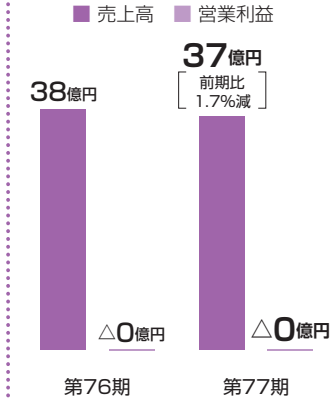


◆ 当期のポイント ◆

新規原料の提案活動、既存原料の拡販活動、関連会社を軸とした受託加工の推進に取り組む。

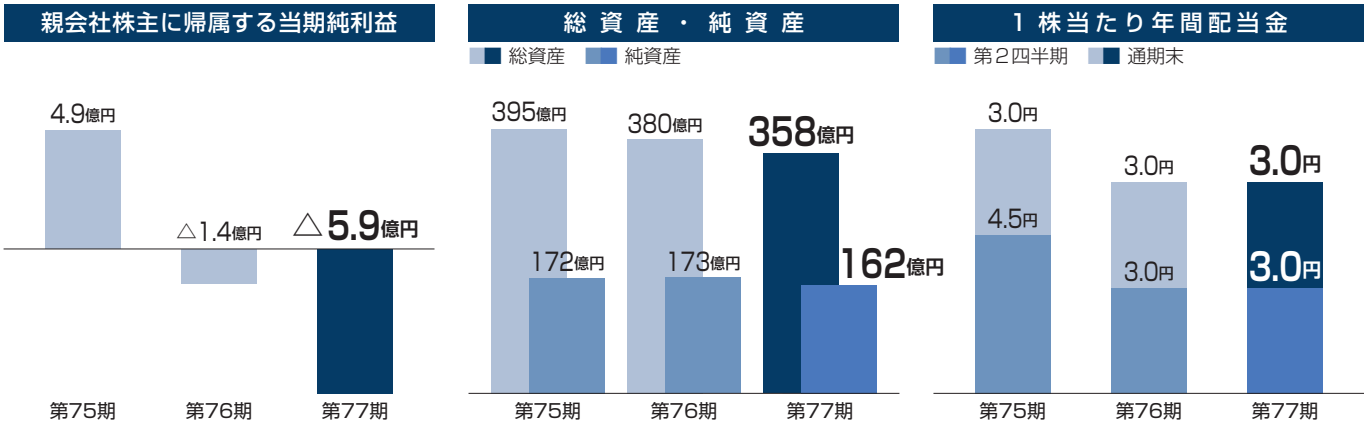
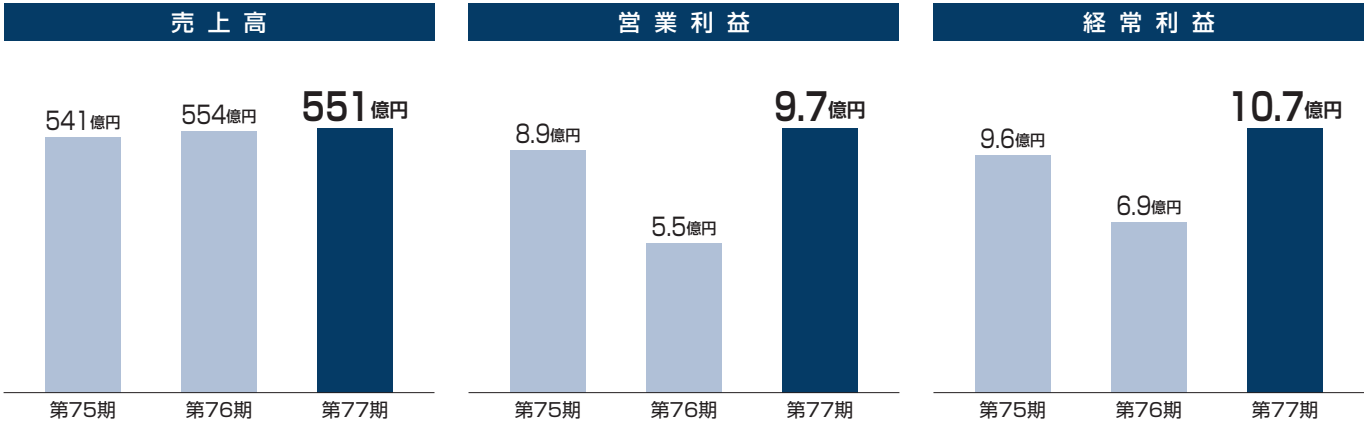
天然調味料などの販売は堅調に推移、受託加工の推進は低調に推移。

◆ 業績推移 ◆



連結決算ハイライト

	第76期	→	第77期
売上高	554億円		551億円
営業利益	5.5億円		9.7億円
経常利益	6.9億円		10.7億円
親会社株主に帰属する当期純利益	△1.4億円		△5.9億円



小さな社会貢献活動への取り組み

清掃活動

2016年10月22日に、CSR活動の一環として、大宮駅周辺にてゴミ拾いを行いました。

献血活動

2016年10月14日に、東京都赤十字血液センターのご協力のもと、本社にて献血活動を実施いたしました。今後も献血活動は継続して実施していきます。

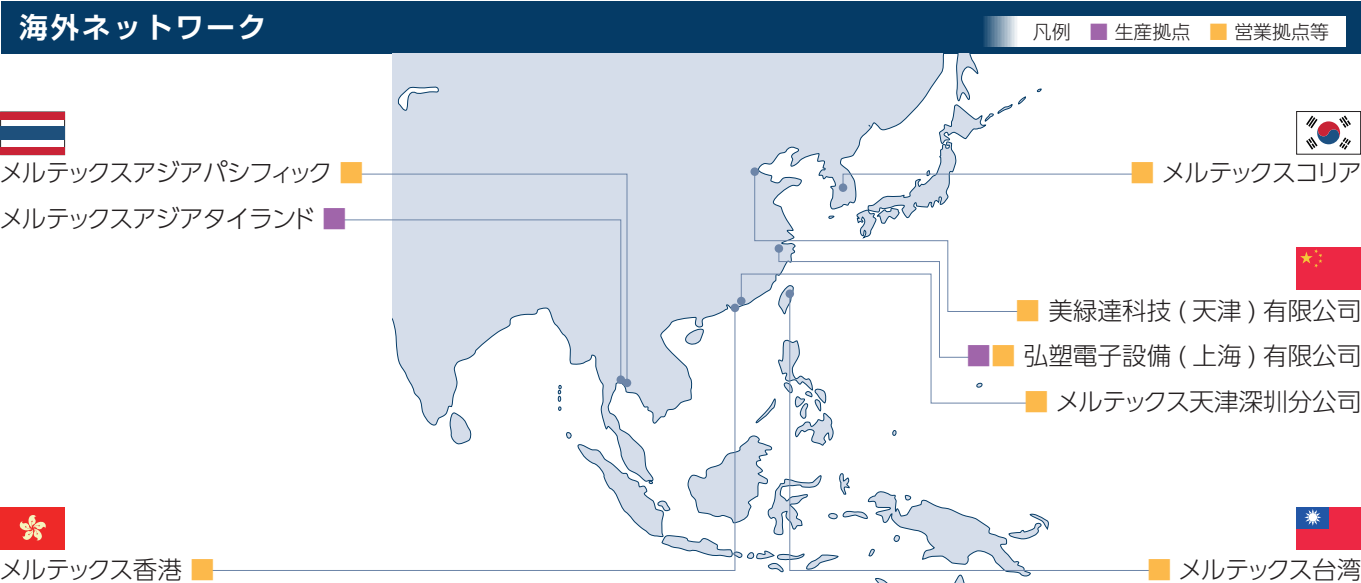
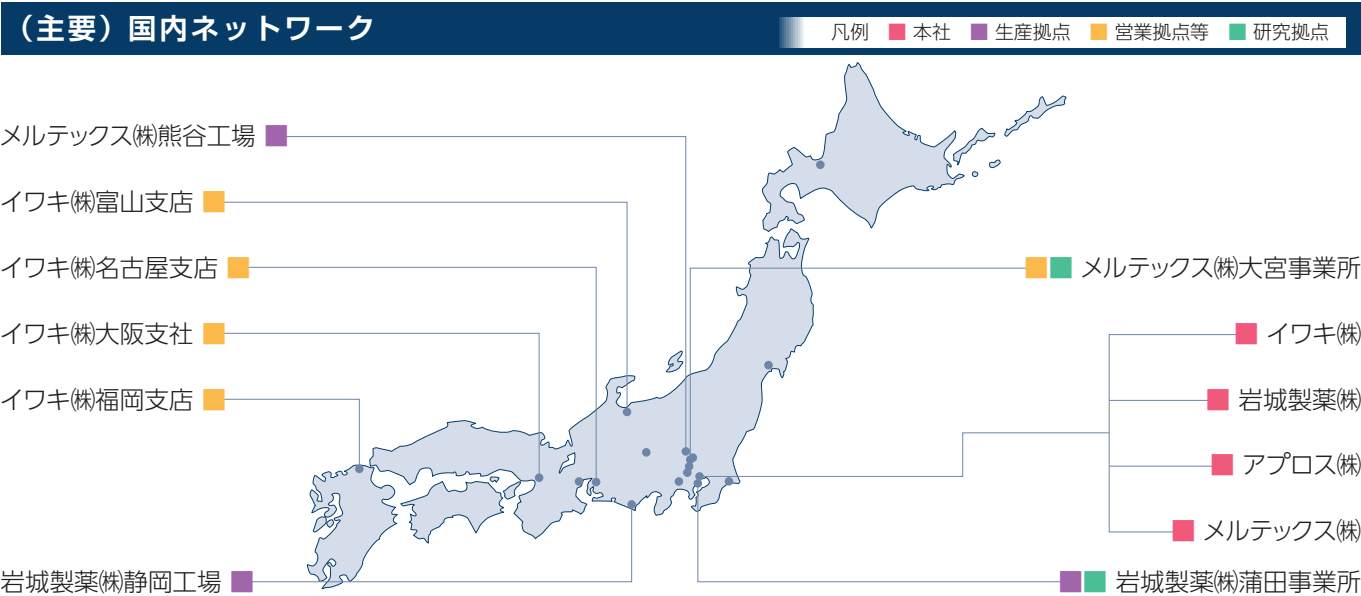
中央区緑のアダプト活動

2012年2月から「中央区緑のアダプト活動」に参加しております。中央区保有の花壇を、区に代わって管理・運営しており、年4回の花の植替え、日々の水撒きや雑草取りなどを実施しております。

赤い羽根共同募金

2017年4月に入社予定の内定者が本社にて「赤い羽根共同募金」を実施いたしました。最初は緊張している様子でしたが徐々に慣れ、一生懸命に声をかけていました。

イワキグループネットワーク（2017年1月1日現在）



会社概要

会社概要（2016年11月30日現在）

社名	イワキ株式会社
本社所在地	東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
創業	1914年(大正3年)7月10日
設立	1941年(昭和16年)9月20日
資本金	25億72百万円(東証1部上場)
社員数	(単体) 266名 (連結) 960名
主な事業内容	医薬・F C事業 H B C事業 化学品事業 食品事業

主な事業所	・大 阪 支 社 大阪府大阪市
所 在 地	・富 山 支 店 富山県富山市 ・名古屋支店 愛知県名古屋市 ・福 岡 支 店 福岡県福岡市

主要取引銀行 三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行

取締役および監査役（2017年2月24日現在）

代表取締役会長	岩城 修	取 締 役	古橋 勝美
代表取締役社長	岩城 慶太郎	取 締 役	越智 大藏
常 務 取 締 役	藤田 久	取 締 役	川野 毅
常 務 取 締 役	大森 伸二	常 勤 監 査 役	関根 和夫
常 務 取 締 役	今野 高章	常 勤 監 査 役	山口 誠
取 締 役	熱海 正昭	監 査 役	吉田 孝
取 締 役	伊藤 龍雄	監 査 役	守山 淳

株主メモ	
事業年度	毎年12月1日～翌年11月30日
期末配当金受領株主確定日	毎年11月30日
中間配当金受領株主確定日	毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話：0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL http://www.iwaki-kk.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
（ご注意）1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。	

株主様アンケート

株主の皆様へアンケートのお願い

当社では、株主の皆様の声伺い、株主様とのコミュニケーションの充実を図っていきたいと考えております。お手数をおかけしますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

【株主の皆様へのアンケート】 該当するものを○で囲んでください。

Q1. 当社の株式を保有された理由は何ですか？

① 安定配当 ② 株価 ③ 事業内容
④ 経営理念 ⑤ 収益性 ⑥ 将来性
⑦ 財務内容 ⑧ 証券会社の勧め ⑨ 相続
⑩ その他()

Q2. 当社の株式の保有期間はどのくらいですか？

① 1年未満 ② 1年～3年未満 ③ 3年～5年未満
④ 5年～10年未満 ⑤ 10年以上

Q3. 当社に関する情報収集の手段は具体的に何ですか？

① 証券会社 ② 四季報 ③ 日経会社情報
④ 新聞・雑誌記事（媒体名：）
⑤ 当社ホームページ
⑥ インターネット情報（サイト名：）
⑦ その他()

Q4. 「株主の皆様へ」(報告書)について、ご感想をお聞かせください。

[]

Q5. 当社に対し今後期待されることは何ですか？

[]

Q6. その他、ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

[]

ご協力ありがとうございました。



株主の皆様へアンケートのお願い

郵便はがき

料金受取人払郵便

日本橋局
承認
6731

差出有効期間
平成29年5月
31日まで

切手不要

103-8790

927

東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
イワキ株式会社 人事総務部 行



該当する□内に✓(チェックマーク)をおつけください。

年齢	☐ 20歳未満 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上
ご職業	☐ 会社役員 ☐ 会社員 ☐ 公務員・団体職員 ☐ 自営業 ☐ 専門職(医者・弁護士等) ☐ 農業 ☐ 主婦・パート ☐ 無職・年金生活者 ☐ その他()
お住まいの地域	☐ 北海道 ☐ 東北 ☐ 関東 ☐ 北陸 ☐ 中部 ☐ 近畿 ☐ 中国 ☐ 四国 ☐ 九州・沖縄 ☐ その他地方

※ 本アンケートにご記入頂きました内容は統計的に集計し、第三者に開示することはいたしません。

株式情報 (2016年11月30日現在)

株式の状況

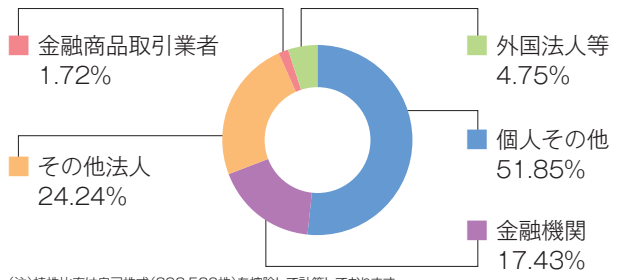
発行可能株式総数	136,000,000株
発行済株式の総数 (自己株式898,586株を含む)	34,147,737株
株主数	5,185名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
明治通商株式会社	2,007	6.03
株式会社ケーアイ社	1,764	5.30
株式会社ヘルスケア・キャピタル	1,663	5.00
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,188	3.57
イワキ従業員持株会	998	3.00
岩城 修	970	2.91
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	777	2.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	669	2.01
株式会社大阪ソーダ	658	1.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	624	1.87

(注)持株比率は自己株式(898,586株)を控除して計算しております。

株式分布状況 (所有者別分布状況)



(注)持株比率は自己株式(898,586株)を控除して計算しております。



〒103-8403
東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号
イワキ 株式会社 電話：03-3279-0481

表紙写真：「薬祖神社」
福徳の森に遷座した
薬祖神社



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。